

■新建築家技術者集団■

SHINKEN・AICHI・BRANCH・NEWS

# 新建築あいち

## 2023. 6月号

新建築愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町 1-11-25

ホームページ（2022年4月～）URL <http://nu-ae.com>

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

## ■ 愛知支部総会を行いました！～仕事を語る会・野田明宏さん～

4月29日（土）13時～愛知支部総会を行いました。参加12名、委任状23名でした。

コロナ禍での2～3年の総括とこれから2年の活動について、議案をもとに話し合いました。議案の文字が多すぎる・などの指摘もいただきながら、若い方へのアプローチが必要なこと、SNSの活用、新建築の考えがにじみ出る企画、どんな方に入会いただくのがよいかなど話し合いました。幹事以外にも、東京から野田さん、岡田さんも参加いただき、チリウヒーターの川合さん、豊田の安藤さん、錦二丁目の名畑さん、中央設計名古屋の倉知さん、会員外では大曾根でカフェを開く予定の高野さんにも参加いただき、中森議長のもと議案を議決し可決されました。

14時半～野田明宏さんの「仕事を語る会」では、全国各地を廻って、建築とまちづくりの濃密な実践の片鱗を教えてくださいました。地域組織、企業、個人の、豊かな日常とまちの持続性につながるまち開きのお仕事と言っておられて、長年の信頼とつながりからいただく依頼の話や、市街化調整区域や長屋物件での苦勞、300㎡以内（省エネ対策）におさえるなど実務的なこと、継続的につづくための経営計画など、1日かけて聞いてたい量を1時間でお話いただいた感じでした。

17時～懇親会は18時半くらいまでみんなで交流しました。野田さんには、新入社員どんな方なのか、大学ではどんなことを教えてるの？など質問しまくっていましたが、会員の方のことほとんど知らない～とあらためて実感しました。買い物ときの何気ない会話で得る情報の貴重さを感じたりして、リモート会議とは違った余白のような会話の大切さを改めて感じました。

参加くださいました皆様、会員・会員外の皆様、ありがとうございました。（黒野）



## ■ 野田氏『仕事を語る会』感想

前半、お話、プレゼンが早過ぎて分からなかった。  
中盤から脳みそが追いついてきた。  
質問でお金の出所、依頼主のことを教えて頂き、繋がった。  
野田さんは、デザイン力だけではなく、お話の仕方に説得力があるのが良かったです。 (川合 英二郎)



地域の読み方から、プロセスデザイン、事業企画、設計にわたるまでできるなんてとてもすごいと思いました。

「COMI CHI石巻」のプロジェクト尊敬しておりましたが、こんなに多くの仕事で、丁寧にやっておられて、あらためて“何をやるか”より“誰とやるか”が先行するのが大事だなと思いました。

まちづくりに必要なのは「実務派」「理念派」「思いやり派」「のりのり派」がそろふことだと思っていますが、プロジェクトによって、全部やれる人ははじめて！ (名畑 恵)



どのようにして仕事をつくりだしているのか興味を待ちました。人と人のつながりの中から次から次へと、相談をさせる人になっていることが大切であると感じました。 (甫立 浩一)



## ■ 総会アンケートから

### ◆ 今興味を持っていること

- ・空き家の断熱改修、耐震改修
- ・自然エネルギーを利用する企画
- ・建設残土の処分。太陽熱発電の今後について

### ◆ 今後の新建愛知支部に取り組んでほしい企画や活動

- 見学会 ・古民家リノベの断熱改修
- 講座のテーマ ・斎藤健一郎氏（朝日新聞記者）による「節電テクニックからオフグリッドへ」
  - ・自然エネルギーを利用した住まいについて
- その他 ・金子潤氏と山林を歩き、金子潤氏と山林を語ってもらう
  - ・空き家の耐震改修



### ◆ 新建愛知支部や新建全体への要望・希望

- ・2050年自分が「にカーボンニュートラルになるかならないか、ならない理由とそれに対して自分がやっていることはあるかのアンケート
- ・次の世代の人とのつながりをどうもつのか ・支部のLINEグループをつくりたい
- ・職人さんの会員を増やしたい

### ◆ 近況報告

- ・犬の散歩により、腰の調子が良い (甫立)

## ■ 「図書館の生活資本」 ～居住福祉と生活資本の構築(153)

岡本 祥浩

猪谷千香『小さなまちの奇跡の図書館』（ちくまプリマー新書、2023）という新書がある。鹿児島県指宿市の小さな図書館を日本で最も注目を浴びる施設にした物語を紹介している。ここに図書館が果たしている生活資本としての役割が書かれていた。それを紹介したい。

かつて街中にあった多様な人々が出会い情報を交換して、意思形成をはかる共生の場としての機能が失われてしまった。だからこれからの図書館は、都市空間、つまり教会、市場、広場のような『出会いの場』と深くかかわっている、という。実際、都市空間がお金を介して目的的功能に細分化されてしまい、出会いの場がなくなり人々が協力して何かをなす体験がなくなってしまったように思う。そこから生まれる新たなつながりも得られなくなったように思う。

図書館の役割を図書の無料貸し出しだけに限定すると、様々なものが宅配を介して各家庭に届けられるようになった現在では図書館の必要性が感じられなくなる。私たちの暮らしの中で図書館の果たす出会いの役割を失った出会いの機会を含めて改めて見直す必要があるだろう。

図書館は、人や情報などを集める機能がある。情報の収められた媒体は本やCDなど多様だ。それら多様な情報を多くの人々に提供するのが図書館である。図書館の役割は、情報の収集と提供というとても単純な機能として理解できる。しかし、そこに人が絡むと途端に多様な役割が発揮される。図書館で多くの人が集まって読書会をすると、一つの本について自分とは異なる見方や考え方を認識できる。図書館には、情報を探す手助けをしてくれる機能がある。情報を探す方法がわからなくても一緒に探してくれる。情報は何かの媒体に納められたものばかりではなく、地域に存在する歴史的出来事や夕日や朝日のような自然現象であったりする。そうした事象と一緒に探してくれるとなると、図書館の役割と訪れる価値が格段に高まる。更に図書館で「セミの羽化観察会」、サツマイモの植え付け、「ぬいぐるみのおとまり会」などのイベントが開催されると特に子どもたちが集まる。そうした経験が積み重ねられると、子どもたちは家族以外に頼れる大人がいることを認識する。相談できる家族が居ない場合に図書館に行けば何かしら解決の糸口を見つけられるようになる。そうなったら、図書館は生活資本の一部になる。図書館に来る子どもは、事務所カウンター越しに「今日あったこと」を報告したり、「図書館にすれば、誰かは絶対にいる。」と考えたりするようになる。

本から始まる図書館の情報の収集と提供は、新たな人と人とのつながりを作り新たな知識や情報の広がりを生み出す。我々の暮らしの場にはこのような拠点が必要に思う。意識的に『知の拠点』を造る必要を感じる。

（中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員）

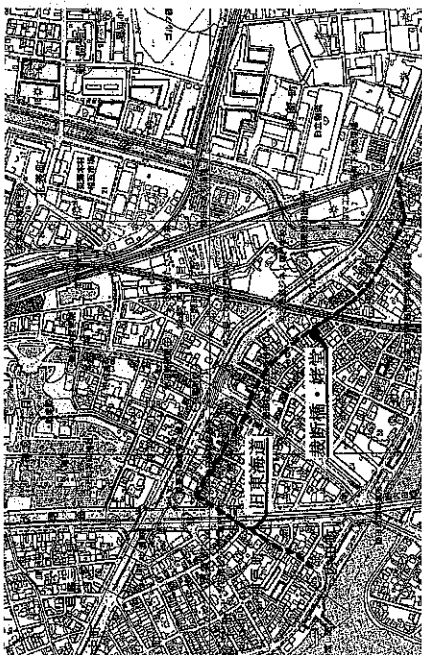
# 歴史探訪シリーズ 23 熱田区

## 裁断橋と姥堂

旧東海道宮の宿の東のはずれ、精進川に架かる橋を裁断橋と呼んでいました。精進川は明治43年(1910)に改善され、その後は新堀川と名前を変えていました。

改修によって水路が変更になった所もありますが、この裁断橋付近は大正15年(1926)に残されていた旧水路が埋め立てられ、橋は不要になり取り外されましたが、昭和28年(1953)に姥堂(うばどう)の境内に1/3の大きさに縮小され再建されました。

この橋を有名にしたのは、<sup>\*</sup>擬宝珠に彫られている銘文にあります。天正18年(1590)に18歳になる堀尾金助を小田原の陣で死なせた母親が、33回忌にあたりその菩提を弔うために橋の架け替えを行いました。その際、架け替えの趣旨を擬宝珠にきざみこみました。母が子を思



現在の裁断橋、後ろは再建された姥堂

う名文としてこの橋を通る旅人に多くの感銘を与えたといわれています。この名文をきざんだ擬宝珠の実物は名古屋市博物館に保存されています。

この橋のたもとに姥堂が建てられていましたが、これは精進川に溺死者があると、この持ち物や衣類を剥ぎとつて暮らしの足しにしていた老婆が、僧侶の溺死の際に同じ行為を行ったところ、罰があつたのか高熱を出し、狂い死にをしてしまいました。その後、この辺りに人魂が飛び交うことがあり、あの世で浮かばれぬ老婆のせいと思い、この堂を建て供養したものといわれています。今ではこの姥堂は鉄筋コンクリートで立派に建て替えられています。

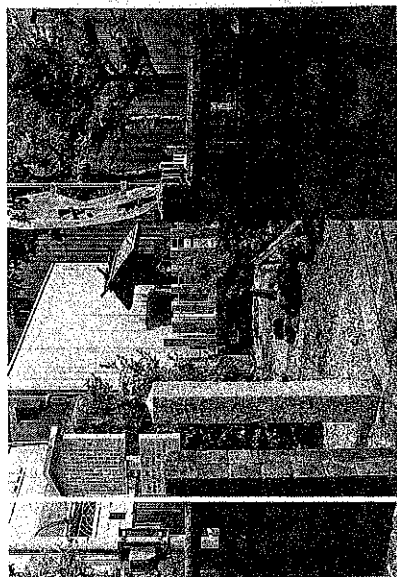
<sup>\*</sup>擬宝珠(ぎぼし)

橋の鵜柱にとりつけられているねぎ花状のかざり

# 歴史探訪シリーズ ②④ 熱田区

## 悪七兵衛と影清社

熱田の神戸町に影清社という小さな社があります。歴史に名をとどめる影清にしてはあまりにも小さい社なので見落とししてしまいそうになります。



影清社

悪七兵衛と呼ばれるのは、平景清のことで、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した武将で、あまりにも勇猛であったことから、悪七兵衛の名で恐れられていました。平維盛・知盛に従って源義仲・行家と戦い数々の成果を得ましたが、平家が壇ノ浦の戦いに壊滅した後、継母を頼って熱田の地へのがれてきました。熱田で景清が住んだという地は熱田近辺に三ヶ所あると伝えられていますが、この社のある所がそのうち1ヶ所と云われています。

影清は熱田に隠れ住んでいた時、神戸町の遊女と知り合い、この遊女との間に女兒をもうけたといいます。遊女は産後まもなく他界しますが、この子は影清が眼病を患い両眼を失った不幸な父のために、けなげにも自ら遊里に身を売って献身的に父を看病したと伝えられています。影清社は、影清の死後、景清が住んだといわれる地の一つに建てられたもので、眼病の神として知られています。また、熱田神宮境内の東北にある清水は、影清が眼病に患う眼を洗った所とされ、このことからここに湧き出ている水で眼を洗えば眼病が治るといふ信仰が生まれました。ここには清水社という社が建てられ、今でも多くの人々の参詣が絶えません。



■ **新建愛知支部 2023年4月 支部幹事会だより**

4月19日（火）19：00～21：00（オンライン）

リモート参加者／入谷、奥野、河合、黒野、福田、壬生、甫立

- (1) 中部ブロック会議を4月20日（木）オンラインにて行います。
  - (2) 愛知支部総会を4月29日（土）開催し、仕事を語る会と懇親会を予定します。
  - (3) 中部ブロックセミナーの現地下見を5月13日に石川県能登千里浜休暇村で行います。
  - (4) 職人不足で困らない為に、共同事業化の組織検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。
  - (5) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。
  - (6) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。
  - (7) 「建まち誌」への50周年祝賀広告を募集しています。支部でまとめて、本部へ連絡をします。
- 今後の幹事会は、5月16日（火）、6月20日（火）、7月19日（水）午後7時と決めました。

\*\*\*\*\*

■ **岐阜市民会館のこれまでの経過とこれからⅡ**

**DOCOMOMO Japan 認定プレートの贈呈と祝賀記念の会**

2023年6月11日（日）13時30分～

会場：岐阜市民会館（岐阜市美江寺町2-6）

会費：一般1,000円、学生500円（資料代＋記念品）

13：30～13：50 認定プレート贈呈式、市長挨拶（予定）など

14：00～14：30 建物概要説明（謡口志保、鰭坂徹）

14：30～15：15 建物見学会

15：20～16：30 市民懇談会（前回アンケートへの回答、意見交換）

司会進行 清水 隆弘

主催：DOCOMOMO Japan 坂倉順三の建築を考える会 in 岐阜

後援：岐阜市（申請中）

※当日都合により、プログラム順序が変更になる場合があります。岐阜支部中心に今後は、保存活動に参加していきますので、是非愛知支部の方にも参加をして欲しいとのことでした。



\*\*\*\*\*

■ **愛知支部事務局・財政からのお願い**

新建会費『2023年前期分』の請求書をメールでお送りしています。

2022年前期・後期末納の方には、2023年前期分と合わせて請求させて頂いています。

※ 振込手数料は、各自でご負担をお願いします。 ご協力を宜しくお願い致します。